

気軽に寄って、語り合って、元気になる場所 ～もうひとつのパワースポット・五個荘石馬寺町自治会館～

五個荘石馬寺町は、人口423人、154世帯、高齢化率約39.7%の自治会である。聖徳太子が建立した石馬寺は「1400年の歴史を持つパワースポット」である。自治会館は約40年前の開館当初から住民に開放され、住民が気軽に集うことのできる開かれた公共の場を提供し続け、もう一つの「パワースポット」になっている。

1. 賑やかな自治会館

石馬寺参道を下り、町内を真っすぐしばらく歩くと新興住宅地が広がる。新興住宅地の入り口で石馬寺町自治会館と出会う。五個荘石馬寺町（以下、石馬寺町）の「臍」ともいえる場所だ。

毎月第2、第4水曜日の午後には「おしゃべり・笑（しょう）・唱（しょう）・タイム」のメンバーが集う。

毎週土曜日には編み物サークル「すみれ」のメンバーが集う。毎月各週の火曜日と金曜日の朝には「ヨガサークル」のメンバーが集う。

(1) 「おしゃべり・笑（しょう）・唱（しょう）・タイム」

「おしゃべり・笑（しょう）・唱（しょう）・タイム」は、令和元年（2019）11月から始まった。代表は日下山さん。老人会会員が寄っておしゃべりをしたり、カラオケで歌ったり、自由に楽しくひと時を過ごす。



五個荘石馬寺町自治会館

日下山さんは、「思い思いの話に花を咲かせて、大きな声で笑って、笑顔がいいですね。若い頃のお話が皆さんとても楽しそう」と記す。

(2) 編み物サークル「すみれ」

編み物サークル「すみれ」は平成21年（2009）頃に行われた石馬寺町の文化祭がきっかけとなり始まる。

文化祭に石馬寺在住の編み物の先生の作品が展示されており、その後先生の声掛けで開かれた、毛糸一玉ができるミニマフラーを編む講習に参加したメンバーが「すみれ」を結成した。活動当初は、先生が準備したサンプルを見て、全員で同じ作品を先生の指導を受けて編んでいた。

しかし最近では、それぞれ自分の好きなものを編んでいる。7年前の自治会行事で作品を展示する機会があり、メンバーが頑張って編んだ



編み物サークル「すみれ」の活動の様子

そうだ。

和気あいあいとした雰囲気の中、おしゃべりの花が咲き、編針を持つ手が止まることもしばしば。今ではコミュニケーションの場として欠かせない存在となっている。編み物だけでなく、お花見や新年会など四季折々のお食事会も楽しみの一つという。

しかし、取材時には「おしゃべり・笑・唱・タイム」、「すみれ」はコロナ禍で活動を休止していた。

(3) ヨガサークル

「ヨガサークル」は、能登川コミュニティセンターで開催されたリズム教室に参加した宮田さんが一緒に参加した石馬寺町の仲間に声をかけて、平成27年（2015）年に結成した。

現在のメンバーは5人で、平均年齢は65歳である。

開催するのは、毎月各週の火曜日と金曜日。DVDのヨガを見ながら約50分ヨガをする。

時間は8：00～8：50と決まっている。それはゴミ出しの日だからである。

ダストピットにゴミを出して、そのまま自治会館へ。「ゴミ出しの日ならヨガの日は忘れませんから」と宮田さんは話す。しかも、この時間帯は病院の予約などの用事が済ませて寄れる時間帯。生活の知恵である。

緊急事態宣言解除後、感染予防をして再開した。

2. 開かれた自治会館

石馬寺町に40年ほど前に新興住宅地ができ



ヨガサークル

た。戸数は約80戸の大きな住宅地であるが、新しい自治会を作らず、当時約60戸の石馬寺町と同じ自治会とした。その頃に現在の自治会館ができた。

開館後の自治会総会で「自治会館で麻雀をしてよいか」と尋ねられたという。そして、麻雀好きの仲間やカラオケ好きも集い自治会館が開館当初から開放された。そして、自治会館は、住民に開かれた場となり、新興住宅地が「石馬寺町」として融合していった。

自治会館の使用料は年間3,000円である。ヨガサークルの宮田さんは、最初の頃は、自治会館の鍵をその都度、自治会長に借りにいっていたという。しかし、今では、自治会長がサークル用に鍵を用意し、1年間預ける。

自治会長の中村修さんは、「みんなを信用しているからです」と話す。

3. もう一つのパワースポット

町外や他府県から石馬寺町の新興住宅地に転入して来られた方々からは「石馬寺はみんない人たちはかり。どこのグループの方も嫌な思いをする人はいないから」と異句同音に話される。

コロナ禍で麻雀やカラオケに今は使われていない。

しかし、いつでも自治会館は石馬寺町の人たちに開かれている。いつでも再開し再会できるように。

自治会館は、石馬寺町の「もう一つのパワースポット」である。



五個荘石馬寺町自治会館